



2022.10.9

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanironso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 40周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

10月23日(日) 赤塚公園どんぐりまつり

10:00~15:00 中央地区サービスセンター前

※雨天の場合は翌週(10/30)に順延

*10/23 どんぐりまつりが予定通り開催の場合

10月30日(日) 秋の手入れ活動2回目

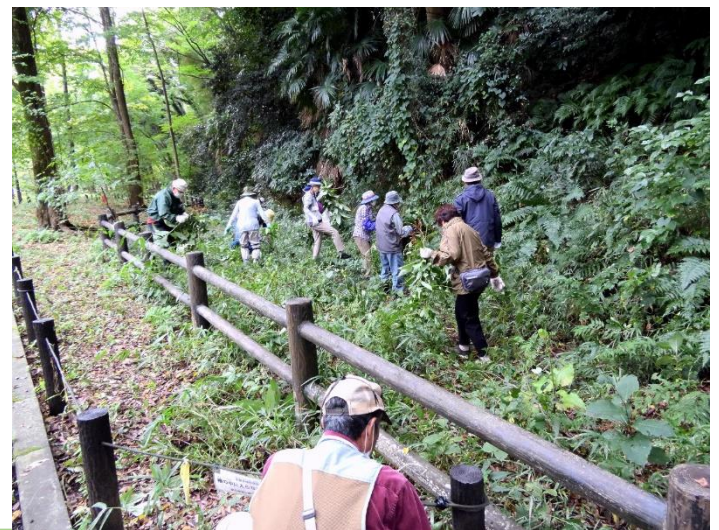
10:00~ 大門観察台

★ニリンソウを守る会は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

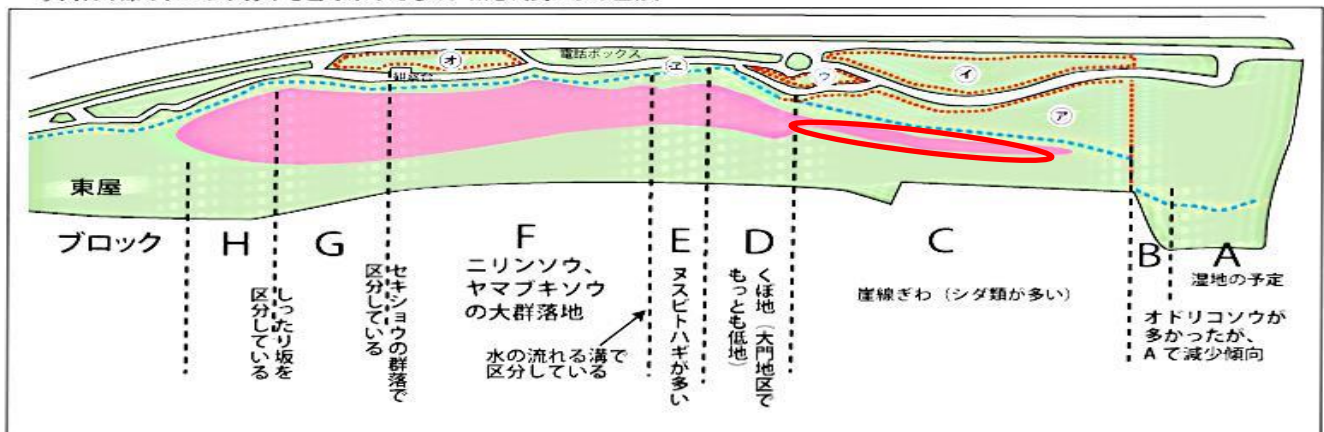
10/9 秋の草刈りスタートしました

秋の手入れ活動のスタートは、ニリンソウ自生地がある大門地区の東側、下図のCブロック赤塚内から開始しました。久しぶりの手入れ活動でしたが16名のみなさんが集まってくれました。



都立赤塚公園大門地区手入れマップ 2020.11.24 改定

・2020.8 生物多様性保護エリアを含めてサービスセンターが引き直したマップに、2014年発行『残そう！崖線の自然』に記録されている手入れの際のブロック分けを当てはめたもの。榮志代氏による監修。



手入れは、赤塚公園サービスセンターと緊密な打ち合わせと役割分担をして行っています。

ひと口に「草刈り」と言っても、植物を「雑草」扱いはしない！

手入れ活動の主な内容は草刈りです。まちなかで良く見られる街路樹の下の草刈りはそこに生えている草をすべて「雑草」として扱って根絶させることを目的としているのに対して、ここでは生えている植物のすべてをちゃんと命を燃やしている生き物として扱い、それらが生きやすい環境をつくるための手入れです。

選択的草刈りが基本

例えば、アズマネザサは茂りすぎると他の植物の生育の妨げになる恐れがありますが、その場所に他の植物が生えている場合にはご遠慮いただいて、そうでない場合には刈り取らないという具合に、場所によって考えながらの「選択的草刈り」になります。

10/9の作業場所は、武蔵野台地崖線のふもとが迫っているごく狭いエリアで、他の場所に比べて暗く湿った場所です。ここでは、シダ植物がたくさん生えていて（識者によると20種以上、中にはここでしか観察できない種もあり）、シダ類は全部残しました。また、この時期はまだ夏草が青々と茂っていて、完全に種子を落としていない植物もあることから、メヤブマオ、ノブキなどはあらかじめ赤い紐でマークを付けて刈り取らないこととしました。



刈り取らない野草には赤い紐を巻いてマーキングして作業に取り掛かりました。



草刈り前と後。同じ場所を逆方向から見る

上左の写真はCブロックのいちばん西寄りの草刈り前の状況です。この写真で見る限り他の植物の生育を邪魔する植物はないのですが、でも、茂っている草が冬になって枯れて、枯草がそのまま地面を覆ってしまうと、地表に太陽の光が届かなくなるために、土の中から植物の新しい葉が展開しにくくなります。そこで、草刈りして右の写真のように、あっさりとした感じにしました。

<Cブロックの刈り取り対象種、残した種など>

- ・刈り取り アズマネザサ、ヤブミョウガ、カラスウリ、カタクリのつる、地面を覆うツタ類など。
- ・残した植物 シダ植物全種、メヤブマオ、ノブキなど。常緑のヤブラン、ジャノヒゲなどは間引く程度、ウバユリの枯れ残り（実の殻）は冬の林に風情をもたらすために残しました。

参加者募集中！

道具はお貸しします。多くの参加者があれば、それだけ丁寧な作業を行うことができます。